

シャープ

世界を一望する「経営コックピット」 説明不要の使いやすさ目指す

シャープが3月に稼働した「エグゼクティブ・コックピット」が特別賞に入賞。全世界の基幹システムから取得した実績データを、一目でわかりやすく表示するシステムだ。忙しい経営者に使ってもらうことを念頭に、使い勝手にこだわった。RIA(リッチ・インターネット・アプリケーション)技術を駆使して、直感的に操作できるシステムを実現した。



応募案件のプロフィール

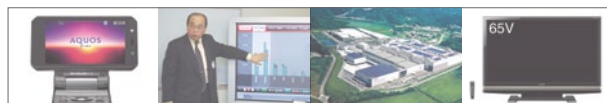
システム名 エグゼクティブ・コックピット

稼働時期 2008年3月

協力ベンダー SIソリューションズ、シャープシステムプロダクト、SiTE4D、SAPジャパン

概要 全世界54カ所にある生産・販売拠点の販売・在庫実績データを容易に把握するシステム。リッチクライアント技術を活用して、経営層の意志決定を支援するデータをグラフィカルに表示する。



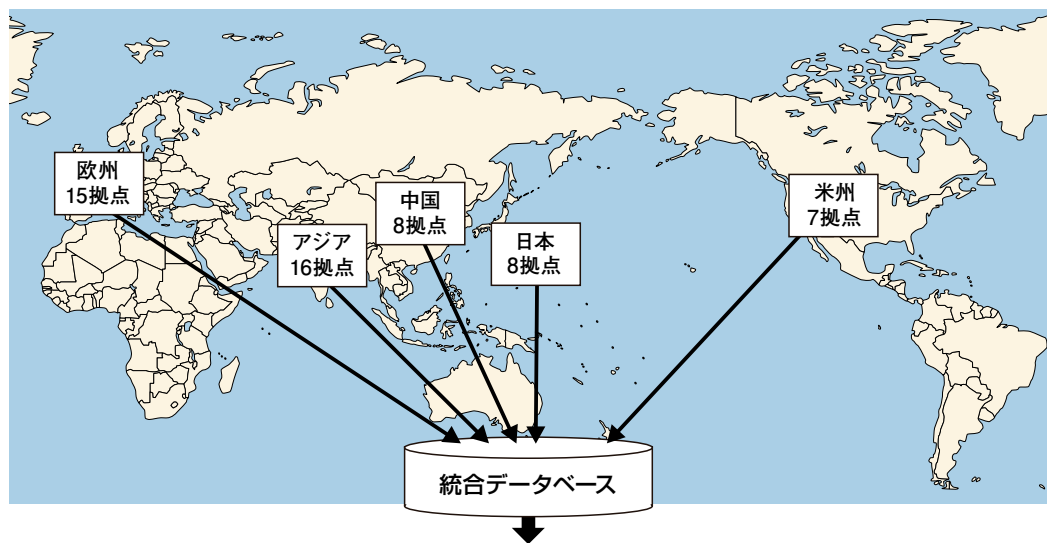


「全世界の販売・在庫データを一目で把握できるように。ただし操作説明は一切不要で」。シャープが取り組んでいる「見える化」の基本方針だ。

この方針の下、シャープは2008年3月に「エグゼクティブ・コックピット」と呼ぶシステ

ムを稼働させた。日本を含む世界各地にある拠点の販売・在庫データをグラフ表示する(図)。データ収集元は「SAP R/3」を使って開発した基幹システム。会長や社長をはじめとする30人近くの経営層が全社の事業状況を把握するために利用する。表示に利用するの

● 図 シャープの「エグゼクティブ・コックピットシステム」は全世界の販売・在庫状況を把握できる各拠点の「SAP R/3」から情報を集約。直感的にわかるグラフ形式で表示する



●写真 開発を率いた端坊辰彦
ITシステム推進センター副所長
「操作説明を一切しなくても済むシ
ステムを目指した」と狙いを語る



はパソコンの小さなディスプレイではなく、65インチあるシャープ製の大型液晶画面だ。

徹底して「見た目」にこだわる

同システムは地域、事業（製品）、営業部隊という3つのカテゴリでデータを分類。各カテゴリのデータを世界地図上にグラフ表示する。グラフのほかに数値を表形式で表示することもできる。

エグゼクティブ・コックピットの最大の特徴はその「見た目」にある。ただ表面的な見栄えを良くしただけではない。操作のしやすさや情報の整理・配置の方法、応答性、データの集計の仕方など、表面的には「見えない」部分にまで様々な工夫を凝らしているのだ。

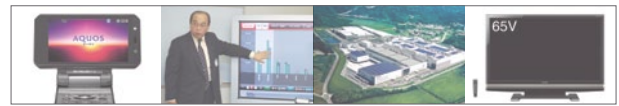
「ビジュアルでかつ実用的。それでいて操作説明を一切しなくてもよい。そんなシステムを目指した」。開発を率いた端坊辰彦ITシステム推進センター副所長は、エグゼクティブ・コッ

クピットの狙いをこう説明する（写真）。「役に立つ情報を提供するの大前提。忙しい経営層に確実に使ってもらうようにするためには、とにかくわかりやすさを追求しないとイケない」。

基本的な操作はマウスで画面をクリックするだけ。数回のクリックで実績データをグラフ表示し、地域間や商品間の違いを視覚的に比較しやすくした。

データのドリルダウン（詳細化）や表示するデータの切り替えといった操作も、あくまで直感的に実行できるよう工夫した。例えば棒グラフをダブルクリックすると、その棒グラフを別ウィンドウで拡大表示。ドリルダウンするのもウィンドウ内のアイコンをクリックするだけだ。

拡大表示したもの以外の棒グラフは画面から消し去るのではなく、「背景」として表示させたままにしている。こうすれば元の全体画面に戻りたい場合は背景をクリックすればよいことが、説明なしでもわかる。



「画面のここをクリックすればこうなるだろうと利用者が考えるシナリオを想定して、ユーザーインターフェース (UI) を設計した」(端坊副所長)

棒グラフや画面の「動き」にもこだわった。例えば販売データの計画と実績を対比して表示する機能。棒グラフが下から伸びていき、計画、実績の順に色違いのバーでデータを示す。「細かなことだが、利用者の興味を引いて利用を定着させるための試行錯誤の結果。社長は一目で気に入った」(端坊副所長)

RIA 技術を駆使

動的かつビジュアルな UI を実現するため、シャープはアドビシステムズの「AIR」を活用した。AIR はリッチ・インターネット・アプリケーション (RIA) と呼ばれる技術の一種。デスクトップアプリケーションから Flash や Web のデータ、クライアント/サーバー型システムのデータを混在させたアプリケーションを開発・実行できる。

元々シャープは Web ブラウザ上で表形式のコックピットシステムを開発。2006 年 4 月から運用していた。今回の RIA 版コックピットシステムは、表形式コックピットシステムの UI を刷新したものだ。

UI 刷新の技術に AIR を採用した理由は、表現力に加えて「バックエンドの SAP システムとの親和性を考慮したため」(谷平利夫 IT システム推進センター戦略企画部副参事)。SAP はアドビと共同で、Flash や AIR を使って SAP 製品のクライアントを開発できるようにする取り組みを進めていた。

複数の RIA 技術を検討したシャープは SAP とアドビの取り組みを評価。AIR の採用を決めた。

正式運用を開始して 4 か月余り。片山幹雄社長は社長室に設置してある大型ディスプレイで、エグゼクティブ・コックピットをチェックするのが日課になっているという。今後はコックピットシステムの利用者層を広げるとともに、重要事項の報告機能を付加するなどの改良を続ける。(玉置 亮太)

講評

「経営層が容易に操作できる『見える化』の仕組みという点を評価した。それに加えて、ユーザーインターフェースに RIA という先進的なエンジニアリング技術を活用している点も評価ポイントだ」